

小麦栽培情報 4月号

令和6年3月19日
J A 柳 川
南筑後普及指導センター

【小麦】

1 生育概況

令和6年産小麦は、12月から2月の高温の影響で生育が早くなっています。出穂期は、昨年より早くなることが予想されます。播種時期等により生育に差がみられるため、小麦の生育に応じた管理作業に努めます。

また、今後の降雨による影響は大きいため、枕地や排水溝を整備し、ほ場内に滞水しないよう排水対策を徹底します。

予想出穂期（11月下旬播種の場合）
「シロガネコムギ」、「ミナミノカオリ」とも
3月26日頃

※出穂期は、ほ場全体の40～50%の茎が出穂した日です。

※予想出穂期は今後の気温次第で前後する可能性があります。

2 赤かび病防除

「赤かび病」は麦の収量、品質に大きく影響します。食品の安全性が問われる中で、カビ毒であるデオキシニバレノール（DON）が取り沙汰され、農産物規格規定上、赤かび病被害粒混入限度0.0%と厳しい基準となっています。
赤かび病予防を行うことが売れる麦の最低条件となっています。

赤かび病の防除適期は、開花期（出穂後7～10日）です。生育により出穂時期は異なりますので、必ず開花（白い葯が見える）を確認し、適期防除に努めます。

防除適期（11月下旬播種の場合）
「シロガネコムギ」 4月2日～
「ミナミノカオリ」 1回目：4月2日～
2回目：1回目の5～7日後

※上記の防除適期は、3月下旬頃に出穂したほ場の目安です。生育により出穂期は異なりますので、ほ場ごとの状況を確認して防除を行います。

※出穂期以降に降雨や曇天が続く場合は、シロガネコムギも赤かび病が多発するため、2回目防除（1回目防除の5～7日後）を行います。

<使用する薬剤>

	薬剤名	10a 当たり使用量	備考
粉剤体系	トップジンM粉剤DL	4 kg	出穂期以降 2 回以内 収穫 14 日前まで
液剤体系	トップジンM水和剤	1,000 倍 100 L	
無人航空機 体系	トップジンMゾル	8 倍 0.8 L	

3 「ミナミノカオリ」の穂揃期追肥

「ミナミノカオリ」は、子実タンパク質含有率（目標値 12.0%）を確保するため、必ず穂揃期追肥を実施します。

品種	施用時期	肥料名	10a 当たり 施用量
ミナミノカオリ	開花期 (出穂後 7～10 日)	硫安	10kg
		尿素	5 kg/水 100L

※尿素有葉面散布を行う場合、高温時や、高濃度での散布は、葉焼けが激しくなることがあるため注意します。

農薬使用上の注意

- 1 散布前に必ず農薬ラベル（①適用作物、②使用量や希釈倍数、③散布時期や総使用回数、④有効期限）を確認！
- 2 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！
- 3 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄！
- 4 防除履歴の正確な記帳！

農業機械の点検・整備をはじめとする安全対策を実施し、
農作業事故ゼロに努めましょう！